

姫路市観光戦略プラン ～第 1 回検討懇話会における発言要旨～

第 1 回検討懇話会：令和 8 年 2 月 19 日開催

10 年後の観光の姿（国内・姫路）	・ 10 年後の日本の観光は、単なる名所巡りではなく、地域の文化・歴史・食・暮らしを体験する観光へよりシフトしていくことが想定される。 ・ 国内全体では、人口減少が進む中で、地域外から人を呼び込み、交流人口・関係人口を増やす観光の重要性が高まる。 ・ 姫路においては、姫路城を核にしながらも、城下町、食、祭り、産業、自然、周辺地域を含めた面的な観光へ発展している姿が望ましい。 ・ 10 年後の姫路は、「姫路城を見るまち」から「滞在して楽しむまち」へ進化していることが理想である。 ・ 国内外からの観光客が、季節や目的に応じて何度も訪れたい観光地となることが重要である。 ・ <u>観光が単発の集客にとどまらず、地域経済やまちの活力につながる持続的な産業として根付いている姿を目指すべき。</u>
姫路の観光の課題	・ 姫路城中心の観光になっていること。 ・ 回遊性、滞在性の弱さ。 ・ 外国人観光客への対応。 ・ 体験型、夜間観光、食の強化。 ・ 姫路の見せ方、伝え方の整理。
姫路の観光が目指すべき取り組み	・ 姫路の観光の核となるコンセプトやストーリーを明確にすることが重要である。 ・ 姫路城を中心としつつ、城下町や周辺地区を含めた回遊ルートの整備を進め、滞在時間を延ばす取り組みが必要である。 ・ 歩いて楽しいまちづくりや、観光客が自然に立ち寄れる導線づくりを進めるべきである。 ・ 夜間観光やイベント、食、体験型コンテンツの充実により、日帰りではなく宿泊につながる観光を強化する。 ・ 外国人観光客に対しては、多言語対応、わかりやすい案内、移動のしやすさを整えることが重要である。 ・ 若者やファミリー層には、SNS で発信したくなる魅力づくりや、体験価値の高い観光素材の磨き上げが必要である。 ・ 観光事業者、商店街、地域団体、行政が連携し、面で観光をつくる体制を整えるべきである。 ・ <u>観光の成果を一過性に終わらせず、地域経済への波及効果を高める仕組みを意識していく必要がある。</u>